

桶川市商工振興計画

令和7年3月

桶川市

「多様な産業が連携・振興できる にぎわいと活力ある

働きたい・住みたいと思えるまち」の実現を目指して

時代は平成から令和へと移り、新型コロナウイルスによる未曾有の危機を経て、人々の価値観やライフスタイル、働き方等が大きく変化し、これまでとは異なる新たな社会経済の在り方を形作っていくことが求められています。

この「桶川市商工振興計画」は、平成16年に策定（平成24年に改訂）され、計画が策定された当初から約20年が経ち、その間、国内の少子高齢化や人口減少が一段と進展するとともに、国際情勢や気候変動等に伴う急激な物価高騰や、歴史的な円安が地域経済にも深刻な影響を及ぼすなど、不確実性の高い時代を迎えました。

こうした中、本市では、令和5年3月にまちづくりの指針となる「桶川市第六次総合計画」を策定し、この度、同計画に基づく商工業発展に向けた取組の指針として、新たな桶川市商工振興計画を策定いたしました。

本市は、昭和48年から令和5年までの50年で11か所の区画整理を行い、良好な住環境を整備してきたことで、本格的な人口減少社会が到来する中でも、人口が大きく減少することなく7万4千人程度で推移しています。また、市内に2つの圏央道のICを有し、全国と首都圏を結ぶ広域交通の結節点として高いポテンシャルを有しており、令和7年3月には、圏央道桶川北本ICに近接するエリアに道の駅「べに花の郷おけがわ」が開業し、新たな地域振興拠点として、市内商工業の発展にも大きく貢献していくことが期待されています。

この度の桶川市商工振興計画では、「多様な産業が連携・振興できる にぎわいと活力ある 働きたい・住みたいと思えるまち」を基本理念として掲げ、この実現に向けて新たな施策にも取り組んでまいります。そして各諸施策を着実に進めることで、桶川市第六次総合計画が目指すまちの将来像、「学び豊かな 笑顔あふれる 幸せ未来都市おけがわ」の実現につなげてまいりたいと考えておりますので、市民の皆様並びに商工業を営む皆様の市政に対します変わらぬご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願いいたします。

結びに、今回の策定にあたり、桶川市商工振興委員会の委員の皆様をはじめ、市民の皆様、関係者の皆様には豊富な知見と経験による貴重なご意見をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

令和7年3月

桶川市長 小野 克典

目次

第1章 計画策定の趣旨	P. 3
1 趣旨	
2 位置づけと期間	
第2章 現在の社会情勢	P. 7
1 国内の動向	
2 桶川市の概況	
第3章 桶川市の商工業の現況	P. 11
1 桶川市の現状	
2 桶川市の商業の概況	
3 桶川市の工業の概況	
第4章 基本目標と10年後の在りたい姿（状態）	P. 17
1 基本目標	
2 10年後の在りたい姿（状態）	
第5章 計画の体系と取組	P. 21
1 計画の体系	
2 取組	
第6章 計画の実現に向けて	P. 31
1 計画の実現に向けた4者の役割	
2 計画の実現に向けた進捗管理について	
3 桶川市第六次総合計画「政策の進捗を推し量る指標」等について	
第7章 資料編	P. 37